



議長会や町村長会として、国の地方自治を無視した合併の進め方に反対の決議を挙げながら、一方では期限内に進めることが大事であるとして短期間で合併を決めてしまうことに大きな矛盾を感じる。

また、国の不透明な地方財政の方向では、15年後、20年後はどうなっていくのか。あまりにも論議が不足しているし、将来像が見えてこないし、町民の中にもその疑問は大きく残っている。さらには、これまでアンケートの実施や住民投票などを求めて来たが、実施されずに今日に至った。

説明会に参加している人の声や各種団体の代表の声などを聞いて賛成と判断したとしているが、町民とともに協働のまちづくりというのであれば、町民にもっと賛否の考えを聞くべきである。

将来の町の方向は町民の意志で決めていくことが、もっと前向きなまちづくりに発展するのではないではないか。

忠類との枠組みによる協議は、昨年12月から3カ月しか経っておらず、幕別町の永き将来にわたって続くであろう町の形態をこんな拙速に、しかも住民投票も行わないで決めていくことは、あまりにも乱暴であり、住民をないがしろにするものである。

合併の理由とされている地方分権への対応、日常生活圏の拡大と広域行政の対応、少子高齢化への対応、豊かで魅力あるまちづくり、そして、行財政基盤の強化は、合併の必要性に成り得るものではない。

もつとまわりの状況を見据え、掘り下げた検討を行い、自立の計画もたてて、住民の意見を十分に聞き、それらを反映した上で住民投票に方向を委ねるべきではないか。

104年にわたって築かれた先人の多くの努力の上に築かれた今日の幕別町の形態をしつかりと守り、発展させていくことが必要である。



## 賛成多数で合併3議案

2月の住民説明会で、幕別町民からは、各種料金などで忠類側の負担増が目立つことから、忠類村への配慮を求める声が多く聞かれ、忠類村民からは、議論を尽くし住民にも十分に情報を提供してくれた。また、14分の1の人口差がありながら、パートナーシップという縁をもち得たことを評価したいなどの声が多く聞かれた。

合併にはメリットもデメリットもあるが、合併を機に新しいまちづくり計画に真摯に取り組んでいくことが、今、強く求められており、合併後も行財政改革の積極的な推進を図っていくことが大切である。

行政と議会の強いリーダーシップと、住民とが一体となり、共通の認識のもと、21世紀にふさわしい地方自治のあり方を問い、自ら方向性を見出すための挑戦を両町村の合併を最大のチャンスとして生かし、次世代に引き継ぐことは時代の要請であり、私たちの使命と考える。

地方分権による権限移譲や少子高齢化の進行、住民ニーズの高度化などの社会情勢の変化に加え、地方交付税の減額に伴い年々厳しさを増す財政運営に適切に対処していくことは、今、もつとも求められていることである。

地方交付税は、遠からずさらなる削減が行われるのは明らかであり、このような時代の要請や住民ニーズに応えらるとともに、目前に迫ろうとしている財政危機を乗り切っていくためには、市町村合併が唯一最良の選択肢であると考ええる。

町長は、幕別町の将来を見据えて合併協議を進めてきたが、今後、地方財政が悪化する中であっても、できる限り現在の住民サービスや負担を維持し、町民の暮らしを守りたい、町民の幸せを守っていききたいという為政者としての信念、責任感のなせるところである。首長としてこれ以上の選択はないと思うところである。

# 第1回定例会

3月2日～23日

## 忠類村との合併が成立!

町長が行政執行方針述べた後、条例改正12件、補正予算7件などの提出された議案について審議され、原案どおり可決しました。住民から提出された請願・陳情2件については、審議の結果採択となり、町議会として意見書を提出することになりました。平成17年度の各会計予算9件については、予算審査特別委員会に付託し、委員会審査の後報告され、「賛成・反対」の討論の末、全ての会計が認定されました。

また、任期満了となった収入役の選任について同意しました。注目されていた忠類村との合併3議案については、「賛成・反対」の討論の末、起立採決により賛成多数で可決されました。一般質問では10名の議員が、当面の行政課題について町理事者の姿勢をたどしました。

- 忠類村を編入する
- 忠類村の財産を幕別町に引き継ぐ
- 忠類村議員の任期を幕別町議員の任期に合わせる

2町村で合併協議を進めてきたが、細やかな住民サービスは廃止され、住民の負担が増えている部分もあり、さらには、合併により面積も広くなり、行政コストも高くなり、施設の維持管理費の負担も増えてくる。合併特例債は合併のための趣旨と条件付きであり、試算されている50億円の33・5%、16億7,500万円は新たな借金となる。

住民説明会は、実質的には住民に決まったことを知らせるもので、協議内容について住民から意見を聞き、協議会に反映させていく手立てもされていない。

住民からは、短期間で合併を決めていいのか、新たな借金が増えるのではないかと、住民一人ひとりの意志確認をすべきではないかなど、不安と不満の声が寄せられている。

将来の町の枠組みを決める方向は、住民投票で決めるべきである。

## 合併に反対

## を可決

## 合併に賛成

これからの時代は地方の時代である。国や地方の財政状況が非常に厳しい中、住民サービスの質を維持しながら、住民との協働のまちづくりを展開していくためには、合併は最良の選択であると言える。

地方財政が悪化すると、道路の補修は進まない、道路除雪も来ない、防犯灯もつかない、ごみの収集回数も減るなど、すぐに住民生活に大きな影響が出てくる。住民はこのような夢を描けない町に住みたいと思えるだろうか。

また、この合併は忠類村からの編入合併という大英断により実施されようとしている。忠類村民の決意に心から敬意を送り、その思いに込められるべく誠意を示すべきものである。

幕別町の歴史は百有余年、忠類村の歴史は五十有余年であるか、この合併はこれからの幕別が着実に歴史を刻むためにも、先を見据えた必要な決断である。